



2025.2.16

芸術統合型学習シンポジウム

—幼児造形、図画工作、美術教育の視点—

芸術統合型学習の 理論的追究

松本 浩司 名古屋学院大学経済学部



JSPS科研費 JP20H01685の助成を受けました

「芸術統合型学習を通じた美術教育の再定義～横断的実践調査及び質問紙法による学力分析」

本資料の引用について

- 今後の課題（18・19ページ）のみ引用可
- その他は、既発表論文（印刷中含む）を要約したもので、出典が省略されています。引用はご遠慮ください。それぞれの元になっている論文から引用してください。

芸術統合型学習の今日的役割

学校教育改革と芸術をめぐる社会的変化



日本における芸術統合型学習研究の現状

- 関連研究は多くあり、概ね6つのテーマに集約できる
 - ①海外における芸術統合型学習カリキュラムの動向
 - ②日本における芸術科目間での統合の実践
 - ③日本における芸術科目と非芸術科目との統合の実践
 - ④認知の理論モデルに基づいた芸術統合型学習の構想
 - ⑤アクティブラーニングの方略として芸術の活用を論じたもの
 - ⑥STEAMの議論において、芸術統合型学習の視点を含むもの
- 事例や芸術の領域を超えた理論的な検討や実証的な実践研究は進んでいない。



芸術統合型学習の意義

- とくにアメリカでの先行研究に基づく、以下の6点に集約できる。
 - ① 多様な感覚・芸術形式を用いた表現・鑑賞活動によって、知覚（感性）と概念（理性、科学知）とを紐づけ、概念の深い理解・活用と知識の定着を促す
 - ② 学習者の動機づけを促進する
 - ③ 学校教育で主に使われる言語と異なる形式による芸術的コミュニケーションを学校内外で触発する
 - ④ 芸術以外の分野からの刺激を受けて、芸術教育を再活性化させる
 - ⑤ 今日の世界人に必要とされる認知的・社会的技能を育てる
 - ⑥ 教師に効果的で新しい教授方略を提供し、教師間の協働を促すことで、教師とその授業を活性化し、学校文化を改善する



芸術統合型学習の特徴

- 教育の個性化あるいはユニバーサルデザイン
- 教授方略に留まらず、学校、あるいは、芸術教育、学校を超えた社会的関係性の変革を指向する、学校教育改革の全体的（holistic）アプローチ
- 学校で展開されることが望まれるアクティブラーニング
- 端的に言えば、芸術統合型学習とは、学習者と学校（そこで学ぶことを含む）・社会との結節点を創出するために芸術を活用する学習活動

芸術をめぐる社会的変化からの要請

- 現代社会における芸術は、科学を含めた、生活のあらゆる分野に深く浸透し、かつ普及しつつある。
 - ① 芸術に関わる市場の拡大
 - ② 芸術と他分野との融合（再接近）
 - ③ アート思考（芸術に触発される思考の方法や態度）への注目
 - ④ 芸術の社会的メリットへの注目
- 芸術統合型学習は、学校教育改革の手段として期待されるだけでなく、芸術そのものをめぐる社会的変化に対応するために必要





医療者教育における芸術の活用

芸術統合型学習のもうひとつの潮流



医療人文学／健康人文学（medical humanities/ health humanities, humanities in healthcare）

- 学問体系あるいは医療者教育の科目（群）の名称
- 政治学、歴史学、哲学、社会学、感性学、芸術学、文学が主に含まれる
- 医療者教育としての主な目的
 - ① 多面的に医療を考えること
 - ② 専門職性や共感、利他主義の育成
 - ③ コミュニケーション力や観察力の育成
 - ④ 職種を超えた協働の促進
 - ⑤ 燃え尽きや共感疲労の防止



新しい教授方法としての意義

- ① 医療・疾病とのかかわりを含む人間のありようを、事例を通じて感情・共感を伴って理解する
- ② 視点取得や多面的な見方を涵養する
- ③ 臨床への転移（応用）のために多様な文脈での学習を促す
- ④ 医療に関する価値観を育てる
- ⑤ 創造的に統合的な理解を深める
- ⑥ リサーチマインドを育てる
- ⑦ 医療における芸術の有用性を実体験する



美術教育における視点取得

コミュニケーションの媒体としての美術、
コミュニケーションの内容は他教科の学びにある

芸術における視点取得

- 視点取得とは、自分自身の現在の視点を異なる立場や位置に移動させ、その視点にある者がもつ心的状態（思考や信念、情動）や見えるはずの風景を推測し理解すること
- 芸術は、世界に対する私たちの印象としての意味を描写・記述・受肉化（embodied）し、共有しようと試みるもの＝**コミュニケーションの手段**
- 視点取得が他者とのコミュニケーションの質を高めるなら、芸術でも視点取得は不可欠な能力だと直観的に理解される



鑑賞における視点取得

① 対話

- 対話を通じて、特定の造形要素・秩序に対する他者の解釈を様々に見聞し、抽象／個別化すること、つまり視点取得によって、個々人が自らの経験をふまえつつ、造形要素・秩序に関する知識の〈辞書〉（レパートリー）をつくり出す

② 批評

- 物事の良い点と悪い点を指摘し、自分の評価を客観的に論じることであり、他者に新たな作品やその新たな見方を知らせるもの→そのためには視点取得が必要
- 自身の〈辞書〉が他者に了解されるかを試す機会でもある

③ 芸術家の意図や視点を考える

表現における視点取得

① 表現の対象を考慮する

② 技法に埋め込まれた視点を取得する

- 技法は、先人がなんらかの意図によって開発したもの。あるいは、技法としての行為そのものが、思索の手段。受け継がれてきた技法には、先行の諸世代が得た知識や経験が埋め込まれている。
- 技法は、意図と造形要素・秩序をつなぐ→〈辞書〉＝意図、技法、造形要素・秩序、解釈（意味）という4項の相互関係

③ 批評を受ける

- とくに、〈辞書〉における意図と解釈（意味）との相互関係を充実させる



美術教育への示唆

- 視点取得＝視点の多様化→創造性の涵養
- 美術に係る専門用語・概念を含む言語活動の役割
- 視点取得のために身体性の活用
- 鑑賞と表現との関連づけにおける主要なチャネル（手段）としての視点取得
- 視点取得を含む活動によって、学習の真正性を高める
- 鑑賞・表現双方で、他教科や学校外で得た知識が活用されるし、それを促す必要がある＝芸術統合型学習の必要性
- 教師自身が芸術家や批評家として、芸術界という実践共同体の参加者であり続けることが、生涯にわたる美術教師の発達課題

視点取得＋デッサン

- デッサンは、記号的な見方を抑制して、直観的なモノの見方を身につける認知的な訓練であり、その技法には、**認知的方略としての物事の見方が埋め込まれている。**
- 美術教育でデッサンの技能と視点取得（＝視点の多様化）とをともに伸長させることは、**子細に観察する力**を伸ばし、美術鑑賞・表現はもとより、教科外・学校外の学習においても、**物事に対する学習者の認識を促進**できる可能性がある。



美術教育における視点取得

- 美術（教育）における視点取得は、とくに造形要素・秩序に関わる、他教科でも他の芸術分野でも扱われない独自の能力。
- 他教科では扱われない人間の意識の側面、すなわち、視覚形態における美の直観を通じて、外界を表現し、理解させるという美術教育特有の役割における一端が、視点取得にある。
- ただし、現代においてこの役割は、世界における他の営為との相互依存（相互承認）のなかでしか果たされない。他の営為に「開かれた」美術教育のなかで、他の営為との関係において自らの存在意義を再定義することが必要だ。
- この再定義においても、視点取得は重要な役割を担うはず



今後の課題

芸術教育研究において、
芸術分野間での協働をど
う進める？



- 
- 本研究の遂行において困ったこと＝特定の芸術分野を超えて芸術教育を議論する場が日本にない。芸術分野間を統合する芸術統合型学習の議論も同じ。
 - 芸術教育政策の貧困も、これに起因？
（右図：文化庁ホームページ
<https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsu-bunka/sobunsai/>）
 - これらの議論のプラットフォームを創造する実践的課題がある

芸術教育・文化部活動

全国高等学校総合文化祭

- [全国高等学校総合文化祭](#)
- [全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演](#)

文化部活動

- [文化部活動に関する取組](#)

芸術教育

- [学習指導要領](#) 
- [図画工作で扱う材料や用具](#) 

関連業績一覧 (2025年3月末現在)

1. 松本浩司 (2022). 芸術統合型学習の今日的役割—学校教育改革と芸術をめぐる社会的変化 『日本美術教育研究論集』 (55), 1-12.
2. 松本浩司 (2022). CBAA モデルにおける実証および理論上の論点 『認知科学』 29(2), 270-273.
3. Matsumoto, K. (2025). Effects of visual art observation on technical skills in novice healthcare learners: A scoping review [version 2; peer review: 1 approved, 1 approved with reservations]. *F1000Research*, 12, Article 79.
4. 松本浩司 (2023). 医療者教育における芸術の活用—新しい教授方法としての意義 『医学教育』 54(3), 235-243.
5. 松本浩司 (2025). 視点取得に注目した美術教育の再定義に向けた試論 『日本美術教育研究論集』 (58), 35-46.

